

浦安鐵鋼団地景況実感調査結果表
(平成23年4月分)

ご協力ありがとうございました。平成23年4月分の結果をお送りいたします。よろしくご査収ください。

調査対象 166社 回答 157社 回答率 94.6%

調査項目	前 月 比					計	前 年 同 月 比					計
	10%以上 増加・上 昇・好況	やや 増加・上 昇・好況	横這い ・平常	やや 減少・下 降・不況	10%以上 減少・下 降・不況		10%以上 増加・上 昇・好況	やや 増加・上 昇・好況	横這い ・平常	やや 減少・下 降・不況	10%以上 減少・下 降・不況	
売上数量	15社 9.7% (13.8)	27社 17.5% (17.1)	32社 20.8% (19.7)	42社 27.3% (20.4)	38社 24.7% (28.9)	154社	26社 17.3% (16.8)	21社 14.0% (16.8)	30社 20.0% (17.4)	31社 20.7% (19.5)	42社 28.0% (29.5)	150社
売上高	14社 9.2% (12.4)	24社 15.7% (18.3)	33社 21.6% (20.9)	44社 28.8% (19.6)	38社 24.8% (28.8)	153社	30社 20.1% (16.7)	24社 16.1% (18.7)	26社 17.4% (17.3)	31社 20.8% (20.7)	38社 25.5% (26.7)	149社
在庫数量	2社 1.4% (7.4)	29社 19.7% (17.4)	69社 46.9% (40.9)	31社 21.1% (25.5)	16社 10.9% (8.7)	147社	12社 8.5% (12.5)	23社 16.2% (11.1)	50社 35.2% (36.8)	36社 25.4% (20.8)	21社 14.8% (18.8)	142社
販売単価	2社 1.3% (0.7)	25社 16.6% (23.3)	111社 73.5% (66.0)	10社 6.6% (6.0)	3社 2.0% (4.0)	151社	14社 9.9% (11.8)	45社 31.7% (38.2)	63社 44.4% (33.3)	12社 8.5% (8.3)	8社 5.6% (8.3)	142社
収益状況 (粗利)	11社 7.2% (7.3)	20社 13.2% (18.5)	48社 31.6% (30.5)	40社 26.3% (21.2)	33社 21.7% (22.5)	152社	10社 6.8% (10.8)	28社 19.0% (20.3)	42社 28.6% (25.0)	31社 21.1% (18.2)	36社 24.5% (25.7)	147社
稼働率 (生産・加工設備)	5社 4.0% (0.8)	16社 12.9% (13.5)	41社 33.1% (27.0)	32社 25.8% (21.4)	30社 24.2% (37.3)	124社	10社 8.5% (6.7)	14社 11.9% (12.5)	34社 28.8% (29.2)	27社 22.9% (16.7)	33社 28.0% (35.0)	118社
入出庫の トラック台数	5社 3.4% (2.8)	16社 10.9% (14.5)	48社 32.7% (27.6)	47社 32.0% (22.1)	31社 21.1% (33.1)	147社	8社 5.8% (7.1)	20社 14.4% (14.3)	46社 34.5% (25.7)	33社 23.7% (20.7)	30社 21.6% (32.1)	139社
	現在の景況感					計	3ヶ月後の景況予測					計
	0社 0.0% (0.7)	7社 4.9% (7.1)	45社 31.7% (30.5)	43社 30.3% (22.7)	47社 33.1% (39.0)		142社	0社 0.0% (0.0)	26社 19.1% (20.2)	68社 50.0% (40.3)	23社 16.9% (24.8)	
特記事項	今月も各品種の〔特記事項〕が数多く寄せられましたので、別送にてお知らせいたします											

- 注 ①調査対象会社数は浦安に事業所の無い会社（不在地主など）は除外してあります
 ②()内の数字は前月のパーセントです
 ③結果表は全品種の動向として集計し、品種別の要因を取り上げる必要がある場合は
 特記事項欄に別途記載いたします
 ④本調査の宛先等の変更は、浦安鐵鋼団地協同組合事務局までご連絡ください
 事務局 TEL：047-350-5311 FAX：047-350-5316

景況実感調査（４月） 特記事項

毎月、景況実感調査にご協力頂きましてありがとうございます。集計結果は別紙にてお送りしましたが、今月もたくさんのコメントを頂きましたのでお送りします。ご査収下さい。

[お断り]毎月のコメントはあくまで個々の“生の声”です。業界全体の標準的見解とは、若干異なる場合もあります。また、不適當な表現やわかりにくい表現については書き直しております。信用問題にかかわるものも原則として掲載していません。

薄板・表面処理鋼板

- ① 4月中旬から引合いが減っている。そのせいもあり市中価格の上昇も止まってしまっている。ユーザーへ価格交渉に行くにも必要な状態で前向きな回答がもらえない。需要家によっては応援などで忙しい先も見られるが、殆どの先は一部の部品が揃わず仕事が進まない状況になっている。(とくに自動車関連)今後は、情報というアンテナを高く張り、いかに仕事を取っていくかがポイントになる。
- ② 東日本大震災での東電原発影響の有無により被災取引先の復旧状況に差が生じており、原発問題の収束時期が遅ればリスクは高まる危険性がある。緊急性の高い復旧関連受注は単発的に発生しているが、瓦礫撤去、仮設住宅建設の遅延により、本格的復興需要は年後半になるとみている。
- ③ 震災を境に値上げ前の仮需が止まり、通常の実需にもブレーキが掛かった。このような状況下で、流通はメーカー値上げの転嫁に努めるも、閉塞感が強く足並みの乱れも見られる。連休明けを機に仕切り直しが出来ることが焦点となる。
- ④ 自動車関連の需要家への販売が極端に落込み苦戦した。4月末頃から震災に間接的に関する引合いが何件かあった。メーカーからの値上げもあるが、需要家の動きが芳しくなく、皆様子見となっている。
- ⑤ 震災復旧資材関連が出て来ており、6月までの予定が入っているため、久々に繁忙感が実感された。資源価格(鉄鉱石、石炭、原油等)も高止まりの中、メーカーは値上げを実施しており、需要家の生産が不安定である中での価格改定の作業はきわめて難しく、本当にこの夏までに新価格が通るのかは、与信面での不安とともに見極めができない。少なくとも、過剰な在庫は持てないし、大きなリスク要因を想定しながらの営業となる。

中板

- ① 4月の販売数量は、前月比は若干増となるも、前年同月比では大幅減となる。国内メーカー値上げの背景も実需低迷が3月から続いており、大震災と福島原発が大きな要因と考える。高値のコイル入荷が継続しており、在庫コストは大幅に上がっている。現状の市況では採算確保が厳しくなって来ている。段階的な市況値上げが急務となっている。当面、需要の回復は期待出来ないと予測するが、採算確保に向け得意先に根気良く説明のうえ、値上げに注力していく。

厚板

- ① 当月は橋梁、鉄骨とも端境期であり、低い山積み状況であったが、地震によりいろいろな面で影響を受け、大幅に減少した。今後もファブの山積みや高炉メーカーの復旧状況にもよるが、しばらくはほぼ横這いの状態で推移し、数量的にも増加していくのは、土木関係を中心とした切板が本格的に出始める夏以降になると思われる。今後、厚板の値上げはあるものの、切板価格としては現在の需要環境、社会的情勢を鑑みると厳しい状況になることが予想される。

- ② 20日以降動きが鈍化し、5月が不安。

一般開金鋼

- ① 震災後は客先が建築の見直しをしたりして、余震が収まったら建築を進めようとの声が出ている。
- ② 震災後、被災プラント等の緊急補修材の出荷も終り、マーケットは超閑散となり、前月比3割減の売上も覚悟したが、徐々に正常化し前月比営業日数1日減なるも、前月比横這いの結果となった。これを受け、本格的復旧、復興需要が出るまでの道筋がついた。

II開金鋼

- ① 3月末からの低調な荷動きが現在も続いているが、値上げ玉も入荷しているので、採算を考えて少なくとも現在の市況を維持することが大切である。
- ② 一般の需要の落込みはしばらく続くだろう。復興関連の需要増はプラス α と考えて、需給バランス、与信管理を行う必要がある。

異形棒鋼

- ① 3月に比べて4月は低調な感じだった。連休が明けてからだと思う。

鋼管

- ① 震災のため稼働できない。受注もない。

構造用鋼

- ① 自動車を始め大手ユーザーは震災の影響からか、部品が揃わず減産必至。価格は原料高騰によりメーカーの動きに注目。
- ② 需要環境は、震災後の混迷を受け、全般的に鈍化しており、当面は鈍い動きが続くそうである。各鉄鋼メーカーの値上げに伴い、先高感はあるもののこの状況の中での再販価格への転嫁は難しい。

その他

<曲げ加工>

- ① 震災後急激に下落。なお現在もその余韻が続いている状況。今後「やや増加」を予測するには今しばらく時間を要する。

<鉄スクラップ>

- ① 相場は震災後に下り始め、4月中旬頃までには戻り、連休前より下り始まる。発生はリーマンショック前には戻らないが、その後少なくなったペースで安定はしている。

<金属表面処理加工>

- ① 4月は前月受注残の紐付および緊急手配の加工を含めて、処理量は前月比10%増加となる。スポットは引合いも少なく予想以上に低調。5月は紐付、国内プラント向けを中心に予定しており、稼働日数が少ないことから安定的な操業となりそうである。

<鋼材全般>

- ① 鉄鋼団地の被害とともに取引先が東北地方に集中しており、想像以上に下落した。やっと1ヶ月かかり工場内の機械の整備が終了し稼働が始まったところだ。復興の仕事でも早く出ればと願っているが、今のところ話はまったくくない。

調査対象 166 社

回答社数 151 社

回答率 91.0%

震災後と震災前の比較

売上数量					
かなり増加	やや増加	横這	やや減少	かなり減少	計
8	25	29	47	41	150
5.3%	16.7%	19.3%	31.3%	27.3%	

販売単価					
かなり増加	やや増加	横這	やや減少	かなり減少	計
1	19	109	11	3	143
0.7%	13.3%	76.2%	7.7%	2.1%	

稼働率					
かなり増加	やや増加	横這	やや減少	かなり減少	計
2	17	36	38	36	129
1.6%	13.2%	27.9%	29.5%	27.9%	

入出庫トラック台数					
かなり増加	やや増加	横這	やや減少	かなり減少	計
4	16	45	49	34	148
2.7%	10.8%	30.4%	33.1%	23.0%	

特記事項 震災後と震災前の比較

今月は例月の調査と「震災後と震災前の比較」についての景況感の調査も実施いたしました。以下は当調査に寄せられたコメントです。

薄板・表面処理鋼板

- ① 自動車関連の引合いが減り、2次、3次加工が必要な品物の販売が減ったため、平均単価が落ちた。足下は徐々に回復傾向にある。建機、機械関連は機種によっては震災前以上の生産になっているものもある。
- ② 実需低迷下でのメーカー値上げの価格転嫁が絶望的。
- ③ 仮設住宅向けの資材が短納期対応を求められている。材料の確保は何とか目途がついた。

中板

- ① 3月11日以降、3月末までは比較的動きも好調であったが、4月に入ってから急に不調となった。しかし、4月末になり連休明けの仕事が徐々に入ってきた。
- ② 荷動きは目立った変化はなかったが、今後、不透明感が強い中、数量面、価格面の予測が難しい局面が続くと思う。

厚板

- ① 高炉メーカーの事情により、内定していた物件がキャンセルになったり、納期が大幅に後れたり、また新規手配が出来ない状況が続いており、震災による影響は甚大である。夏場以降の回復に期待している。

一般形鋼

- ① 震災の1ヶ月前から仮需的動きも終り、価格的にも弱含みが続いていたが、震災後10日間は鹿島や市原の工場プラント被災緊急補修需要が発生して、やや増加に近い横這いの荷動きになった。

H形鋼

- ① 震災後、一時的に土木サイズが動いたが、3月末からは引合い、荷動きとも震災前より落ち込んでいる。
- ② 震災後には、一時的に供給不安による材料手配があったが、震災関連の需要はまだ少ない。

異形棒鋼

- ① 3月11日以降、1週間は非常に悪く、2週目は通常の数倍あり、3月は締めてみると良かった。4月になるとやや減少し始めている感じだ。
- ② 震災前の受注を消化しているだけ。震災後の新規受注は皆無に等しい。

平鋼

- ① 東電のガスタービン建設に伴う材料の大量発注により受注増。

鋼管

- ① 出荷出来る状態ではない。

構造用鋼

- ① 震災による緊急手配的な引合いと、大手ユーザーの減産による出荷減が交錯している。
- ② 全般的な荷動きは、震災後、裾野の広い自動車関連の低下および建産機関連の低下等を受け鈍化しており、影響が長期化しそうである。

その他

<曲げ加工>

- ① 震災前と比べると震災後は急激に減少している。

<鉄スクラップ>

- ① 震災後2週間位は荷動きが少なかったが、日が経つにつれ戻ってきた。

<金属表面処理加工>

- ① 東北地区のユーザー向け紐付材が震災の影響で出荷留めとなり、3月は震災前と比較して10%以上減少。4月入り後、一部紐付材の出荷が再開され、また復旧用緊急手配材が出て来て数量的には回復傾向。

<軽天材>

- ① 都内、神奈川等を始めとする震災の影響が少ない現場への納入が出荷量を支えており、新規物件の引合いについては非常に少ない。価格動向についても、物件の少なさ故に値上げがままならない状態。震災後、明確に強気に転じたメーカー側と弱気ムードのユーザーとの板ばさみが続いている。